カトリック高松教区報

２０２１年７月１８日（第２０２号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB　http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

世界平和のためにできることですか？家に帰って家族を愛してあげてください。
あたたかい微笑み。妻に夫に子供に、そして全ての人に微笑みかけなさい。微笑みは愛を育てます。

今後の高松教区の宣教司牧
希望の中で「開かれた教会」の姿をみいだそう

使徒ヨハネ　諏訪榮治郎

２０２１年７月に入って、各小教区のミサが公開ミサとなり、感謝のうちに集っておられることと思います。つきましては、教区の司祭評議会で継続審議となっている懸案「今後の高松教区の宣教司牧」を皆さまに分かち合わせていただきたく思います。

高松教区は宣教司牧「地区・ブロック」が６つあり、24の小教区があります。現在当教区で働いておられる（引退を除く）聖職者は計24名です。内訳は教区司祭＆助祭９名、ドミニコ会６名、スペイン外国人宣教会３名となっております。その24名の聖職者のうち来年（２０２２年）に80歳以上になられる方は７名となります。今から３年後を考える時、引退される司祭方が見込まれてくることは当然のことであります。

そこで今後の教区全体の宣教司牧の在り方を考えねばなりません。何人の司祭方が現役で残られるでしょうか。今までとは違った在り方を考える必要に迫られています。

これらの状況は高松教区だけの問題ではなく、ほとんどの教区に同じ問題が迫ってきています。基本的には自分の小教区だけではなく、私たち一人一人が教区全体の状況を念頭に置くことが求められてきます。そこで考えたいことは以下のとおりです。

・司祭・助祭と信徒の奉仕職とのさらなる協力宣教司牧強化がかなめとなります。（各評議会の重要性）

・地区・ブロックに対する意識の変化（＊自分の小教区にしがみつくことなく、地区・ブロックを一つの小教区として考えることによって、信徒同士の協力化・教会行事の活性化・財政の軽減化を図る）

・教会施設の有効利用（教会施設を信徒専用物と考えず、広く社会のために開放する・みんなの教会）

・そのために生涯養成（司祭も信徒も合同で）が必要になってきます。「養成」が「意識」を変え、そこから本当に必要な「組織」が生まれてきます。

このほかに様々な課題が浮かび上がってきます。不安なことではなく、希望の中で「開かれた教会」の姿をみいだし、多くの人々にとって福音の喜びの場となるように、祈りのうちに歩みたいと思います。

今後各地区・ブロックにおいて、３年後を見据えた宣教司牧の在り方を策定していくこととしています。皆さまのご協力、ご理解を心からお願い申し上げる次第です。

７月８日、諏訪司教様の誕生日に、桜町教会マリア会からお花を贈りました。司教様おめでとうございます!!

諏訪司教から朗読奉仕者へのアドバイス

ミサの中で聖書朗読をする人の役割は大変重要なものです。

「聖書のみことばが教会で朗読される時には、神ご自身がその民に語られ、キリストはご自身のことばのうちに現存して、福音を告げられる。したがって神の言葉の朗読は典礼のもっとも重要な要素である」とミサ典礼総則（９）にある通りです。

そこで朗読者の留意すべき点をいくつか考えてみました。皆様の準備に役立てればさいわいです。

朗読者の準備

・朗読者はその日の「聖書と典礼」を前もって入手し、下読みを繰り返しておきます。

・読み方などであいまいな点があれば調べます。

・さらに自分で聖書を開いて朗読個所の前後を読み、内容の理解を深めておきます。

・自分の朗読をレコーダーなどで録音し、練習すると自分のくせや欠点がよく見えてきます。

朗読の心得

・聖書のみことばを朗読するとは単なる朗読ではなく、神のみことばの宣言であります。

・神のことばを自分の言葉で読み、聞かせるという強い自覚が必要です。

・聖書朗読は読む人が自分一人で分かればよい、というものではありません

よりよい聖書朗読
・・・もう一段の努力と工夫を

・ゆっくりと、理解しながら読む。（朗読と祈りはゆっくりと・・が原則です。）

・ことばとことばの間の取り方を工夫する。（非常に大切なことです。）

・あまり「せりふ」を読むような口調にならないように、かといって極端な棒読みも困ります。

・旧約と新約など、書によっておのずと朗読の調子も違ってきます。

・旧約（預言書）などは威厳をもって、新約（手紙）では話しかけるように読みます。

技術的なこと

・文章の終わり、語尾まではっきりと発音すること。

・喉だけで声を出すのではなく、腹から声を出すようにつとめる。（堂々と読む。）

・マイクの前であっても、大きい声を出したほうが良い。（後ろの人に声が届くように読む。普通より声の大きい方は少しマイクから離れる。シールドがある場合マスクは外す。）

朗読の姿勢

・少し足を開き、胸を張って堂々とした姿勢で読みます。（本にかぶさって活字だけを追うようにならないように気を付けましょう。）

・両手は軽く書見台の端に置く。（台が低いときは聖書を両手で奉持する。）

・一息で、一気に読もうと、決してしない。（聞いている人には理解できない。）

朗読の調子

・聖書にふさわしい格調のある朗読が望ましい。

から、独りよがりの読み方をしないように気を付けましょう。

・会衆の方々に理解してもらうためには、朗読者がみ言葉を理解していることが大切です。

はばたき

先日「愛は魂の奇蹟的行為である」なかにし礼著を図書館の新書の棚で見つけました。生前に書かれたエッセイを編集した本ですが、その中の詩に感涙。僅か６歳で体験した戦争という邪悪。他人の死をも振り払い、生死を紙一重の中で生き抜いた幼い頃の壮絶な戦争体験の詩ですが、それは今を生きる私達へのメッセージでもあり平和への希求を謳い上げているのです。この体験はこの方の人生に重く深く関わっていたのです。

平和といえば色んな人間模様を哀愁を帯びた曲に乗せて切々と謳い上げている歌手、さだまさしが浮かんできます。歌詞の中では人の優しさ、人間愛が語られています。静かなる反戦歌とでも言うのでしょうか。

今私達は人類の繁栄と幸福の為と言いながら神の思いとは反対の歯止めの効かない文明社会を突き進んでいます。私もその恩恵を受けている一人です。自国第一主義、環境破壊等々。自然界のバランスを崩さずあらゆる生物との共存や平和を他者との利害関係の中で、どの様に収めていけるのか、今それが早急に求められています。

神は人其々にその人に相応しいタレントを下さっています。その大切な恵みをどの様にお返ししていくのか。なかにし礼の詩の最後に〝幸せをあなたに〟と言いながら風船を手渡す男が出て来ます。どんな人にもそう言いながら手渡すのです。さあ！今から私もどんな風船を周りの方に手渡していけるのか?!神の御心を実行に移す為に。

地区・ブロックの話題

～西讃ブロック～
洗礼のお恵みを受けて70年

坂出教会
マリア・ロザリオ　前川千恵子

１９５０年（昭和25年）頃、坂出に住んでいました。坂出教会には、ドミニコ会のマカリオ神父様とサンタ・マリア神父様がおられました。当時の聖堂は、カマボコ型でした（進駐軍の払い下げとか？）。私は、ご縁を頂き、マカリオ神父様から公教要理を習っておりました。一番覚えているのは、天地万物を創造された神様のことを教えて頂いた折、「ここにテーブルがあるでしょう。これは誰が作りましたか？大工さんでしょう」というような例えを色々話して頂いたことです。18歳の私は素直に受け止めておりました。

１９５１年10月７日、ロザリオのマリア様の祝日に、母と一緒に洗礼のお恵みを受けました。母は、２月22日生まれと云うことで、ルルドのマリア様の洗礼名を頂きました。私は、10月７日ロザリオのマリア様の祝日にちなんで、マリア・ロザリオの洗礼名を頂きました。洗礼の秘跡の執行者は、サンタ・マリア神父様でした。

その時代、赤い羽根の募金運動が活発でして、私も参加しました。同世代の若い信者さん達と共に神父様の運転するジープに乗って、あちらこちらで活動しておりました。大島青松園にも慰問に参りました。また、同じ頃、私は、聖マルチン病院で母と共に働いていました。ベッド数も26床で、まだ小さい病院でした。

同時期の出来事として、高松の桜町教会が建設されたことも思い出します。完成した折、シスター曽我部院長様のご紹介で、母は桜町教会で賄いの仕事をすることになりました。桜町教会には、田中英吉神父様（後の司教様）と何人かの神父様がおられました。夏休みには神学生が帰省され賑やかでした。

やがて、スペインのブルゴス宣教会（現在のスペイン外国宣教会）の派遣で、オンダラ神父様（管区長）とマンソ神父様がこの四国に来られました。次に、ダビデ神父様、カシミロ神父様、ドウラン神父様もいらっしゃいました。そして、ブルゴス会の本部が丸亀市に設立されることになりました。私は、オンダラ神父様のオートバイの後ろに乗って何度も県庁に出向き、色々な手続きのお手伝いをしました。無事に、司祭館と幼稚園が新築されました。私と母がスペインの神父様方と親しいと言うことで、「神父様方と一緒に丸亀に行って差し上げて下さい」と田中神父様はおっしゃいました。そのお言葉の通り、母と私は、桜町教会から丸亀教会へと引っ越しました。それから、シリロ神父様、セグラ神父様、ホセ・レクンベリ神父様、ビデガイン神父様、レルガ神父様、イスコ神父様、フランシスコ神父様、レドンド神父様、イスマエル神父様が来日され、ブルゴス会の宣教活動が益々活発になりました。坂出教会、観音寺教会、善通寺教会と教会が新たに建設され、神父様方は各教会へと出向いて働かれました。

神様の憐れみと多くの神父様方やシスター方のお祈りとお助けによって、70年の信仰生活を続けることが出来ました。主人と出会い結婚し、娘と息子を授かりました。５人の孫達や９人の曽孫達も授かりました。長く生きていると、両親を始め、叔父・叔母、従兄弟達、主人、主人の姉夫婦・弟夫婦と、数えてみれば20名近くを見送りました。信仰のお恵みを頂いた家族は25名おります。神様に生かされて米寿を迎えました。感謝で一杯です。

前川さん（孫・ひ孫さん達に囲まれて）

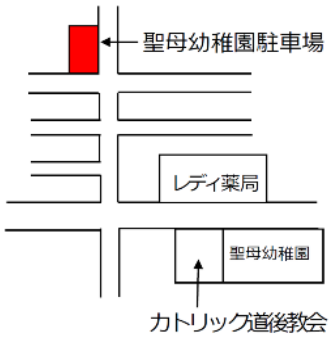
～愛媛ブロック～
道後聖母幼稚園
園舎建替工事中

４月から、カトリック道後教会に隣接する道後聖母幼稚園の園舎の建て替え工事が始まりました。新園舎完成後の旧園舎のとり壊しまで含めると、工事が完了するのは２０２２年７月の予定です。

その間、平日には道後教会の駐車場を工事車両が使用することになっており、今のところ、安全のために平日の教会は閉鎖しております。また、園庭が駐車場として利用できなくなったため、主日のミサのときにはできるだけ教会から徒歩５分（距離２３０メートル）の幼稚園駐車場をご利用ください。教会駐車場は高齢者や足の不自由な方を優先したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、６月から主日のミサ開始時間が11時に変更になりました。川上神父様が松山教会と道後教会の両担当司祭になられたためです。

主日や平日のミサはコロナの感染状況やその他の事情でお休みになることがありますので、道後教会ホームページでご確認の上、おこしください。



◇教区スケジュール◇

7月
1日（木）福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
4日（日）年間第14主日
11日（日）年間第15主日
13日（火）司祭評議会
18日（日）年間第16主日
25日（日）年間第17主日
26日（月）聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ

8月
1日（日）年間第18主日
6日（金）主の変容
日本カトリック平和旬間（15日まで）
8日（日）年間第19主日
12日（木）下田武雄師命日
15日（日）聖母の被昇天
22日（日）年間第21主日
27日（金）聖モニカ
佐々木光雄師命日
29日（日）年間第22主日

NICE
ともに喜びをもって生きよう
大切なこと、若者に伝えたい

教会の諸行事に時たま参加している３人の青年から筆者に「ナイスの話が聞きたい」とメールがあり、小躍りするほどうれしかった。それというのも、３ヶ月前にその青年たちと出会ってナイスの話になると「30年も前のこと？」と鼻であしらわれていたからである。

ナイス（NICE）とは34年前の１９８７年、京都カテドラルを舞台に開かれた第１回福音宣教推進全国会議のこと。「開かれた教会づくり」をメインテーマに、全国16教区から２７４人の代表が小教区から積み重ねた意見を持ち寄り、ともに祈り、発表し合った。教会刷新に向けたその分かち合いは画期的で、まさに歴史的な行事であった。

圧巻は14の提言に基づく「ともに喜びをもって生きよう」＝ともよろ＝という日本司教団教書。その中軸は①社会とともに生きる教会②掟・教義を中心としたとらえ方から「福音を信じ、喜びをもって生きる」信仰へ の転換であった。ナイスは２回で途切れたが、司教団は「ナイスの精神と方向性は生かしていく」（２０１１年６月の定例司教総会）と決議している。高松教区でもことあるごとに司教教書などで説き明かされ、生涯養成に視点をおいた取り組みが注目されている。

教会の少子化が叫ばれて久しい。だから今こそ、意欲がある若者たちに大切なことを伝えておきたい。（M）

教区広報から

教区広報委員会では、教区報・インターネットで教区内小教区の情報を幅広くお伝えしていきたいので、皆様からの情報提供をお待ちしています。小教区の広報誌・新聞などに掲載された記事も歓迎です。各地区の広報委員を通して又は教区広報に直接、ニュースをお寄せください。